

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|--------------|
| A | ：十分達成できている |
| B | ：おおむね達成できている |
| C | ：やや不十分である |
| D | ：不十分である |

| | |
|---------------|---|
| 学校名 | 佐賀市立兵庫小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の重点目標について、保護者アンケート及び職員アンケートでは、概ね達成できたとの成果が表れていた。 ・いじめ等の問題行動や不登校児童支援等への対応については、管理職、学級及び学年等関係職員で早期に対応を行った。今後も、いじめ問題及び不登校児童支援に対して、組織で対応し未然防止、早期発見、早期対応を図っていく。 ・タブレット端末や電子黒板などのICTの活用を含めた教育活動をICT推進リーダーや各主任等を中心に推進していく。家庭学習が習慣化するように保護者と連携した取り組みを行っていく。 |
| 2 学校教育目標 | あいさつ 笑顔 思いやり 心をそらえて チーム兵庫 -正しく かしく 美しく- |
| 3 本年度の重点目標 | 心の教育を推進する 学力の向上をめざす 落ち着いた学校を作る |

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| (1)共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|----------------------|---|--|---|-------------|--|---|--|---------------------------------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | | | | ●学力の向上 | ○全職員による共通理解と共通実践 ○家庭学習の充実 | ○学力向上対策評価シートに示した共通理解を基に共通実践した教師を98%以上にする。 ○学年に応じた家庭学習時間を達成した児童を85%以上にする。 | ・研究テーマに向けて計画的に校内研実践すると共に、学力向上に関する研修を学期に1回以上開催し、学力向上への取組を促進する。 ・家庭学習の手引き及び学習のルールを配布し、学校と家庭の両方で活用する。 ・年4回の「家庭学習ががんばろう週間」を設け、家庭学習の習慣化を図る。 | |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○児童アンケートにおいて肯定的な回答をした児童を90%以上にする。 ・「ほかほか言葉」を使う ・「笑顔であいさつができる」など ○いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていると回答した教師を90%以上にする。 | ・人権教室又は人権教育週間を学期に1回開催する。兵庫小児童をよりよく育てるためのアンケートを実施する。 ・ふれあい道徳教育として、参観日に道徳の授業を公開し、家庭と連携して取り組む。 ・毎月児童及び保護者へのアンケートを実施する。 ・始業式の日「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。 ・教育相談月間を設け、子どもの心の様子を把握し、学年、職員間で共有する。 | A A | ・人権教室や人権教育週間を各学期に実施した。年間を通してなかよしハルーンの取り組みを行い友達の良いところを記入することで自尊心を高めることにつながった。参観日に各学級で道徳授業を公開することができた。 ・毎学期の始業式にレインボー作戦を児童に示しはじめに全校で共通した指導を行った。毎月保護者と児童にアンケートを実施しいじめや問題行動の早期発見に努めた。教育相談月間を設けて児童と面談を行い様子を把握するようにした。 ・いじめ等の問題行動が起きた時に組織的対応ができていると回答した教師が100%だった。 | A A | ・目標値より6%上回った取り組みを評価したい。 ・教師の100%が対応出来ている事に対し教師の皆さんの日頃のいじめに対する意識付けの高さを感じます。 ・素晴らしいです。子供の変化は早いから十分な配慮を。 ・いじめへの組織的対応がすばらしいです。 | 人権・同和教育担当 道徳教育推進教員 生徒指導担当 |
| ●健康・体づくり | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●「健康に良い食事をしている」児童90%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする | ・「給食便り」で食育に関する内容を提供する。 ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実施し、朝食の必要性を喚起する。 ・交通安全教室を実施し安全に対する意識付けを行う。学級活動などで交通安全に関する話や授業を行う。 | A B | ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実践し、朝食の必要性を児童に喚起することができた。健康に良い食事をしている児童は94%、毎日朝ごはんを食べている児童は95%だった。 ・児童が下校中に青信号で横断歩道を通っているときに車と接触する事故が1件あった。幸いけがはなかったが青信号でも安全確認を怠らないようにすることを指導を継続していく。 | A B | ・目標値を上回る結果となったことを評価したい。 ・次年度は交通事故ゼロを達成することを願いたい。 ・安全指導終わりがありませんね。 ・青信号での事故なので不運な部分もあったのかと思います。 | 食育担当 安全教育担当 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・時間外在校等時間を減らすために、毎週金曜日に設定した定時退勤推奨日は18:00までに施錠をする。 | B | ・行事黒板やモニターへ定時退勤日の掲示をしたり音楽を鳴らしたりするなど定時退勤推奨日のお知らせを行った。毎週金曜日を定時退勤推奨日にしてきたが18:00までに施錠をすることができたのは50%である。 | B | ・施錠率50%をどう評価するか。 ・教師のために絶対必要です。 | 主幹教諭、教頭 |
| ●特別支援教育の充実 | ○特別支援教育の充実 | ○1か月の時間外勤務時間平均を30時間以下にする。 ○学級に配慮が必要な児童が在籍する場合「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた支援を行った職員が90%以上にする。 | ・各学年部会や3部会で業務を分担し、組織的に業務を遂行する。 ・毎月1か月の時間外勤務時間平均を明示し呼びかけを行うことでセルフケアの意識を高める。 ・校内教育支援会議を開いたり、校内研修で児童の支援方法についての共通理解を深めたりして、具体的な支援に生かす。 ・巡回相談員や外部専門家等を積極的に活用する。 | A A | ・優先順位をつけたり、業務にオンとオフのメリハリをつけたりするようにタイムマネジメントの指導を行った。 ・1か月の時間外勤務時間平均は4月から1月の平均で29時間だった。 ・校内教育支援会議を開いたり、校内研修で児童の支援方法についての共通理解を深めたりして、具体的な支援に生かすことができた。 ・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた支援を行った職員は100%だった。 | A A | ・中間、最終共に平均30時間以下にできたことを評価したい。 ・次年度も100%となることを期待したい。 | 主幹教諭、教頭 特別支援教育コーディネーター |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | | | | ○落ち着いた学校を作る | ○靴箱の靴やトイレのスリッパの整頓を90%以上の児童ができるようにする。 | ・立腰の定着、靴箱の整頓、学習用具の整理など、基本的な生活習慣に関することについて、心を整えて自発的に取り組むことができるようにする。 | B | |
| ○ICTスキル、情報モラル | ○兵庫小ICTスキル、情報モラル指導計画に基づいて指導をする。 | ○端末活用ロードマップに沿ってICTスキル、情報モラルを身に付けさせる。該当学年で90%以上の達成率を目指す。 | ・ICTスキル・情報モラル指導計画に沿って、学年の発達段階に応じて指導を行う。 | A | ・指導計画に沿って発達段階に応じた指導を行った。当該学年で必要なICTスキルや情報モラルを身につけている児童は89%の達成率だった。 | A | ・中間評価77%から最終89%へ大きく伸びたことを評価する。 | 情報教育推進リーダー |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の重点目標について、保護者アンケート及び職員アンケートでは、概ね達成できたとの成果が表れていた。 ・いじめ等の問題行動や不登校児童支援等への対応については、管理職、学級及び学年等関係職員で早期に対応を行った。いじめ問題及び不登校児童支援に対して、組織で対応し、未然防止、早期発見、早期対応を図ることができた。 ・タブレット端末や電子黒板などのICTの活用を含めた教育活動をICT推進リーダーや各主任等を中心に推進することができた。家庭学習が習慣化するように保護者と連携した取り組みを今後も行っていく。 ・3つの部会を中心として、職員の創意・工夫を生かした取組の充実を図るとともに、職員研修の充実にも努めていく。 |
|----------------|--|